

私の母は変わりもの

盛岡市立桜城小学校四年 山田 結心

私の母は少し変わっている。なぜかと言うと私に勉強しなさい、と言った事が一度もない。さすがに来年受験生になる姉には、大じょうぶ？と聞く事はあつても勉強しなさいと言わない。友達に言ったら、いいなあと言われたし、私がじゆうくに行きたいと言ったら、何で行きたいの？と聞くのだ。

きょ年私は作文コンクールでいくつか賞をもらった。母と親子じゆう賞した事があった。東京で表示しよう式があつて家族みんなで行つて、参加した。母をよろこんでくれると思つた。

良かったね！おめでとう。えらいえらい。よくがんばつたよ。と母は言つてくれて、ぎんぐとだきしめてくれて少しはぶかしかつた。でもその後、母はこう続けた。

「ゆい、一番になる事は良い事だけじゃない

もしかしたら、私の方が上手に書けたの
って言う人もあるかもしれないし、うちの
子もがんばったのって思うお母さんもい
るかもしれない。だってゆいがぎやくの立
場ならそう思うよね？それに次にゆいはど
んな作文を発表してくるだろうってたくさ
んの人が思っているの。でもゆいは自分が
伝えたい事を書いていたらいいと思うよ。
そう言ったのだ。今、賞をとったばかりでよ
ろこびいっぱいばいの私には、その時はよく分か

らなかつたのだ。でも今こうして又作文の時
期が来て、母の言っていた事が分かってきた。
そんな母に私は一度ものすごくしかられた
事があった。私は姉、妹、弟の四人姉弟だ。
妹には感かくかびんという特性がある。音や
におい、いたみや人の言葉を人よりも強く感
じやすい。でも、平かなを讀んだり書いたり
出来るし、見た目だけでは分からない。何か
をするのに時間がかかる事もあるけど、自分
で出来るのだ。人よりも時間がかかる、言葉

をかびんに感じやすい妹にある時

「そんな事も出来ないの」。

と私は言ってしまった。母は私に言った。

「そんなこととはどういう事だ！あなたが五分で出来る事がほかの人は十分かかるかもしれない。自分の基準で人に当てはめるんじゃない！」

私が母にしかられてきた中で多分一番と言える位にしかられた。その後母が言った。

「人に理解してもらおう前に家族がそういう所

を理解してあげなければ、周りの社会の人たちに知ってもらおう事なんて出来ないよ」。

私の母は少し変わっている。何で勉強しろ

と言わないのか聞いたら、

「してもしなくても困るのは自分でしよう。

それに言わなくてもやってるじゃない。」

と言った。

私の母はそんな人。でも、人として何が大事な事なのかを教えてください、私達の大好きな自まんの母なのだ。